

芸術のトンネル ～あなたは抜けき ったよ

小さい頃は傘の中で楽しみ

思春期はまっくら闇トンネル

走ることを楽しんでもいたのだろうが、

やはり苦しくもあったのは事実かもしれない。

そのトンネルは芸術の世界へと続き、

走る道中、斜めに光る赤い明るみは世の中の厳しさ。

横目にチラリ。

しっかりと把握しながらいつの間にか俺は車に乗っていた。

黒いハンドルを握り締める。

それを大人になったというかどうかは

きっと雲の少し下の高い高い木の上、どんぐりの家に
住む老婆に聞いてみないと分からない。

だけど今、

トンネルの壁や天井はあるのかないのかいまいちわからなくなっている。

一体、なにがなんなんだろう？

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございます。
ございました。